

美術協会の創立にて

先月、市内在住の30人をこえる美術家集団、石狩美術協会が創立された。記念としてアートウォームで創立展が開催され、絵画、陶芸、現代アートなどの作品が並んだ。作家は居住する土地の影響を少なからずうけつつ、作品は息吹くものと確信している。そこには無機質なものと異なる、生命との会話、すなわち風土を感じる故だろう。▼幼い頃の心象風景、幾度描いたことや石狩灯台、厚田の崖つぶちから自転車運びこしらえた粘土の花瓶など、幼くして誰にでも経験し、大切にしているものがあるはず。故郷や住まいする土地の粘着力はそれほどすごい。協会活動から新しい石狩のメッセージが発信されるであろうことを心待ちにしている、誰がなんと受け継いでくれるか、楽しみでたまらない。▼同日の小宴パーティでふと40年ほど前、市内在住の画家の手にかかる、鮭をモチーフとした二科展入選作が、石狩の観光ポスターとなったことを思い出した。原画が残っているのかどうかも分からないが、脳裏の底辺をめぐりこころした機会に意識として浮かび上がってくるのはやはり故郷石狩の景色なのである。(市長)

広告